

Title	京大東アジアセンターニュースレター 第538号
Author(s)	
Citation	京大東アジアセンターニュースレター (2014), 538
Issue Date	2014-09-29
URL	http://hdl.handle.net/2433/189894
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

CONTENTS

アジア自動車シンポジウムのお知らせ	2
「中国経済研究会」のお知らせ	3
アルカイダ、ジャマティ・イスラミ、9 6 9 運動	4
上海街角インタビュー ④8	11
【中国経済最新統計】	14



アジア自動車シンポジウムのお知らせ

主催

京都大学東アジア経済研究センター

共催

東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点

東京大学ものづくり経営研究センター

後援

京都大学東アジア経済研究センター支援会(予定)

アジア自動車シンポジウム アセアン統合にいかに備えるか

—日系メーカーが取り組むべき課題を検討する—

■京都会場 2014 年 11 月 8 日(土) 13 時

京都大学法経東館 2 階三番教室

■東京会場 2014 年 11 月 10 日(月) 13 時

京都大学東京オフィス(品川インターシティA棟 27 階)

2010 年代後半にはアセアン統合が全面的に進展する中、東南アジア自動車市場が急速に拡大することが予想されている。中国の人口のおよそ半分の 6 億人を有するアセアン諸国は、年間販売台数が 2000 万台に達した中国自動車市場のほぼ半分の 1000 万台を一つの目標として、自動車の生産能力と流通経路を構築している。

日中関係の不安定性が消えない中、それを補うものとして日系自動車メーカーは東南アジアに磐石の基盤を構築しようとしている。本年のアジア自動車シンポジウムは「アセアン統合にいかに備えるか—日系メーカーが取り組むべき課題を検討する—」とのテーマの下にアセアン各国の課題を分析する。

総合司会

13:00-13:10

挨拶 京都大学大学院経済学研究科長 岩本武和

13:10-14:00

京都大学大学院経済学研究科 教授 塩地 洋 アセアン統合に日系企業はいかに備えるか(仮題 以下同)

14:00-14:30

東京都市大学都市生活学部 教授 井上 隆一郎 勝ち組タイはアジアのデトロイトになれるか

14:45-15:15

鹿児島県立短期大学 教授 野村 俊郎 低価格環境車は新顧客層を創出するか—インドネシア

15:15-15:45

城西大学経済学部 准教授 小林 哲也 フィリピン—販売拡大続くが、撤退するメーカーも

15:45-16:15

未定 輸入車増大し、現地生産は存続の危機—ベトナム

16:15-16:30

閉会挨拶

16:45-17:45

懇親会 参加費 2000 円(協会の会員は無料) シンポジウムは無料

参加の御申込は塩地 shioji@econ.kyoto-u.ac.jp に会場名、氏名・所属、懇親会出欠を御連絡ください。東京会場は定員 100 名、京都会場 200 名です。お早めにお申し込みください。

「中国経済研究会」のお知らせ

2014 年度第 4 回（通算第 43 回）の中国経済研究会は下記の要領で開催することになりましたので、ご案内いたします。大勢の方のご参加をお待ちしております。

記

時 間： 2014 年 10 月 28 日(火) 16:30－18 : 00

場 所： 京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館地下 1 階みずほホール

報告者： 馬 欣欣（京都大学大学院薬学研究科特定講師）

テーマ：「中国新型農村合作医療保険制度が医療サービスの利用に与える影響」

注：本研究会は原則として授業期間中の毎月第 3 火曜日に行います。2014 年度における開催(予定)日は以下の通りです。

前期：4月16日(火)、5月20日(火)、6月17日(火)、7月22日(火)

後期：10月28日(火)、11月18日(火)、12月16日(火)、1月20日(火)

（この研究会に関するお問い合わせは劉徳強（liu@econ.kyoto-u.ac.jp）までお願いします。なお、研究会終了後、有志による懇親会が予定されています。）



アルカイダ、ジャマティ・イスラミ、969運動

22. SEP. 14

アジア・アパレルものづくりネットワーク代表理事

株式会社小島衣料オーナー

東アジアセンター外部研究員

小島正憲

- ・ インド : モディ政権下のヒンドゥー・ナショナリズムに対抗し、アルカイダ登場
- ・ バングラデシュ : イスラム過激派(ジャマティ・イスラミ)が勢力回復、アルカイダとの合流？
- ・ ミャンマー : 仏教過激派(969運動)が台頭し、イスラム教徒を迫害、アルカイダの進出？

1. アルカイダ、インド支部創設の衝撃

インドのモディ新首相は、若いころヒンドゥー至上主義を掲げる民族奉仕団(RSS)に所属していた。2002年に起きたグジャラート州の暴動では700人以上の死者が出たが、そのとき州政府の当時者であったモディ氏がそれに関与していたのではないかと疑念を持たれている。昨今、インドではヒンドゥー・ナショナリズムの運動が激化しており、モディ政権の誕生がそれに拍車を掛け、インドにおけるイスラム教徒への抑圧が懸念されている。

ヒンドー教徒の中には、「ジハードとダルマの対決」と叫ぶものも現れている。RSSが母体となって設立された最過激派組織の世界ヒンドゥー協会(VHP)の幹部は、ラーム寺院再建集会の中で、「ムスリムはジハードの名のもとにラーム寺院を壊し、インド各地で何千ものヒンドゥー寺院を壊した。ジハードはテロ思想である。我々ヒンドゥーはダルマでもってこのジハードに打ち勝たなければならない。このラーム寺院建設はジハード対ダルマの戦いの象徴である！我々はダルマの下に一つにまとまらなければならない！」と檄を飛ばした。本来、ヒンドゥー教における「ダルマ」とは、「人々が従うべき“社会的規範”という意味合いを強くもつもの」だが、この演説の中では、「ジハード」に対抗するものとされ、ヒンドゥー教徒を戦いに狩り出す手段に悪用されてしまっている。

このようなインドにおけるイスラム教徒の苦境を前にして、9/03、国際テロ組織アルカイダ指導者のザワヒリ氏は、インターネットに投稿された55分間のビデオ声明で同組織のインド支部「インド亜大陸のアルカイダ」を創設したと表明した。その中でザワヒリ氏は、インド国内やミャンマー、バングラデシュなどに住むイスラム教徒を「不正と抑圧から助け出す」と明言し、イン

ド亜大陸で「ジハード（聖戦）の旗を掲げる」と強調している。

アルカイダはパキスタンとアフガニスタンの国境地帯を拠点とするが、2011年の米軍事作戦で指導者ビンラディン容疑者が殺害されてから衰退している。分派したスンニ派の過激組織「イスラム国」がシリアやイラクで勢力を拡大する中、薄れつつある「権威」を取り戻し、新たなメンバー獲得につなげたいとの思惑があるとみられる。一方、イスラム国家樹立を目的とするアルカイダの思想は、カシミール地方の分離を目指してインド国内で活動する他のイスラム過激派と相いれないとテロ問題専門家は分析し、アルカイダがインド国内で確固たる拠点を確立し、勢力を伸ばすことは難しいと予想している。

これに対してインド新政権は、国際テロ組織アルカイダによる新たなテロ攻撃に警戒を強めている。政府当局は「アルカイダが存在感を示すために、大規模テロを計画している可能性がある」と指摘。攻撃対象となり得る12州に対し、港湾や軍事、外交、宗教関連施設の警備を強化するよう命じた。治安当局は州政府への通達で「ザワヒリ容疑者自身が支部創設を表明したことが、アルカイダにとってのインド支部の重要性を示唆している」と指摘。アフガンやパキスタンでアルカイダの活動にインド人が参加していると認め、近く国内でテロ攻撃を実行する恐れがあると警告した。

2. ジャマティ・イスラミの勢力回復

バングラデシュでは人口の83%がイスラム教徒、16%がヒンドゥー教徒、残りの1%が仏教徒、キリスト教徒である。したがってイスラム教徒が国を牛耳っていると言っても過言ではない。しかしながら、そのイスラム教の内部には、42年前のパキスタンからの独立時の因縁により、いまだに深刻な対立が続いている。当時、バングラデシュは9か月間にわたる独立戦争で約300万人もの同朋を失ったという。その独立戦争に際し、「イスラム共和国としての一体性」を主張し、バングラデシュのパキスタンからの独立に反対し、パキスタン軍に加担して戦ったのが、ジャマティ・イスラミというグループだった。彼らは独立派のイスラム教徒を「ヒンドゥー教徒の回し者」と呼び、パキスタン軍の力を借り、徹底して攻撃し、多くのイスラム同朋を殺害した。またパキスタン軍兵士の乱暴狼藉を看過した。初めは戦いを有利に進めたジャマティ・イスラミも、インド軍が介入するに及んで敗退し賊軍となり、バングラデシュの表舞台からは姿を消すことになった。それでもバングラデシュ独立後、このジャマティ・イスラミは一時期非合法化されたが、しぶとくその勢力を温存し続けた。

2013年12月、ジャマティ・イスラミに所属するアブドゥル・カデル・モッラが絞首刑に処せられた。その罪名は、「1971年、パキスタンからの独立戦争の最中、ダッカ市内で大量殺人および集団レイプを行った」というものである。つまりモッラは40年以上前の戦争犯罪により裁かれたのである。わざわざ40年前の戦争犯罪を暴き出し、死刑を執行したのは、政権与党であるアワミ連盟の側に大きな理由がある。アワミ連盟は2009年の選挙時に、「独立戦争当時の戦争犯罪人の処罰を行う」という公約を掲げ、バングラデシュ人の愛国心に訴え勝利した。2014年1月の総選挙を控えたアワミ連盟はその公約を果たす必要に迫られ、それを実行したというわけである。

当然のことながらジャマティ・イスラミは、2013年初めからモッラの裁判を遅らすため、全国的なハルタル実施を行っていた。野党第1党のバングラデシュ国民主義党（BNP）が行うハルタルは、ヒマをもてあまして若者たちが金銭で雇われ、適当に騒ぐ程度のものだが、ジャマティ・イスラミの行うハルタルは、死を恐れない若者たちが暴れ狂うものであり、実際に治安部隊との衝突の結果、2013年中に100人以上の死者を出した。このハルタルの激しさは、私自身も目の当たりにしている（既報）。このハルタルへの恐怖が、私をミャンマー工場建設への決断をさせたのである。

2012年9月、バングラデシュ南部、ミャンマー国境沿いにあるラム市で、イスラム過激派による仏教寺院および仏教徒の大規模な襲撃、略奪、破壊が行われた。私は20日後に、この現場に入り詳しく取材し、その惨状をただちに発信した。おそらく現場検証をしてこれを報道したのは、私だけであろう。このとき私は、ソフト・イスラムの国と信じていたバングラデシュに、過激派が存在しているということを知り、驚いた。しかもイスラム過激派から仏教徒を守ったというソフト・イスラム教徒を取材中に、突然、そのイスラム教徒の表情が変わり、話を止め、どこかに姿を隠してしまったことがあった。彼は10分ほどして再び姿を現し取材の続きに応じてくれたので、中断の理由を尋ねたところ、「イスラム過激派の若者が現れたので、身の危険を感じ、隠れた」と話してくれた。そのとき私は、そのことを深く詮索しなかったが、おそらくその過激派の若者とはジャマティ・イスラミだったのだろう。

ジャマティ・イスラミは豊富な資金を背景に、バングラデシュ全土にあるモスクに強い影響力を持っている。また農村地域に存在しているマドラサと呼ばれるイスラム教の宗教学校にも、その影響を広め、農村の優秀な学生に奨学金を出し大学に通わせる活動なども積極的に行っている。これらの結果、現在、ジャマティ・イスラミは、今回の選挙が正常に行われていれば、約10%の議

席を確保すると予測されていた。アワミ連盟と BNP の勢力はほぼ拮抗していると見られている中、ジャマティ・イスラミが BNP と組めば、BNP が政権与党となり、アワミ連盟が下野することになるのは、ほぼ確実であった。アワミ連盟はその事態を避けるため、2014年1月、BNP やジャマティ・イスラミが総選挙ボイコットを表明したのを逆用して、野党不在のまま単独で総選挙を強行し、圧勝した。

その後、あれほど荒れ狂ったハルタルもほぼ収束し、バングラデシュに平穏な空気が戻った。国会はアワミ連盟の一党独裁状態となったが、総選挙をやり直せという声もさほど大きくはない。しかも不思議なことに、BNP は選挙後、「全国規模のハルタルを今後封印する」と宣言した。しかしジャマティ・イスラミは引き続きハルタルを行う姿勢を崩していない。このような状況下で、インドにアルカイダ支部が設立されたのである。現政権のアワミ連盟は、このジャマティ・イスラミとインドのアルカイダが合流することを強く警戒している。

3. 仏教徒過激派（969運動）の台頭とイスラム教徒への襲撃

ミャンマーでは人口の90%が上座部仏教徒、4%がキリスト教徒、4%がイスラム教徒、その他が2%となっており、ミャンマーは国際社会から敬虔な仏教徒の国として認知されている。上座部仏教の高僧たちは、基本的には政治に口を挟まず、仏教徒信者からお布施を受けながら、信者の救済のために、日夜、修行に励んでいる。しかしながら、その仏教徒信者たちが軍関係者に弾圧された場合などには、それに対する抗議行動の先頭に立つこともある。それでも高僧たちのほとんどは穏健な行動を旨としている。一方、イスラム教徒は古来、バングラデシュ国境沿いのラカイン州に、バングラデシュやインドから移り住んでいる。またイギリスの植民地時代には、ベンガル人イスラム教徒らがインドから植民地政策の一環として移民させられてきており、彼らはラカイン州だけでなくミャンマー全国に居住している。なおラカイン州の周辺に住みついたベンガル人イスラム教徒は、ロヒンギヤと呼ばれた。その数は70～100万人と推定されている。

第2次大戦中に、日本軍の進軍によって英国軍が撤退すると、ラカイン州にビルマ人仏教徒が回帰し、ロヒンギヤの追放を開始した。しかし日本軍の敗退とともに、ラカイン州には仏教徒とイスラム教徒が混在することになった。1988年、当時の軍事政権は、ロヒンギヤがスー・チー氏の民主化運動を支持したため、強烈な弾圧に踏み切った。たまりかねたロヒンギヤ約30万人がバングラデシュに逃げ込んだ。その一部は現在も、国境沿いの難民キャンプに暮

らしている。その後、数度にわたりロヒンギャは難民として、バングラデシュに亡命しようとしたが、バングラデシュ側がこれを拒んだため、ミャンマーに送り返された。ミャンマー側もそれを受け入れず、ロヒンギャの中には第3国を求めて海上を彷徨い、海賊に襲われたり、遭難したりするものも少なくなかった。

それでもロヒンギャや全国に散らばったイスラム教徒は、仏教徒と静かに共存していた。ところが2012年秋から2013年末にかけて、仏教徒のイスラム教徒襲撃事件が数多く発生した。いずれも小さいさかいに端を発し、仏教徒のイスラム教徒への大規模な襲撃、略奪、破壊に及んでいる。ことに2013年3月の終わり、メティラ県では仏教徒の暴徒がイスラム教徒の住居、店舗、モスクを襲撃し、40名ほどを殺害した。そのおりにイスラム教徒の店舗の残骸には「969」という数字がスプレーで書かれていた。「969」という数字は仏教における三宝を意味し、この騒動により、「969運動」という過激派仏教徒集団の存在がにわかにクローズアップされることになった。

2013年夏、私はヤンゴン北方の地で、工場適地を探していた。そのおりに、偶然、仏教徒によるイスラム教徒襲撃現場に出くわした。それはすさまじいもので、イスラム教徒の店舗やモスク、車輛が焼き払われ、遠くからも黒煙を目にすることができた。道路が警察により封鎖されてしまったので、数時間、その場での待機を余儀なくされた。その地の仏教徒住民たちは、「昨日まで、この地のイスラム教徒と仏教徒は仲良くしていたのに、突然、こんなことになってしまった」と驚いていた。仏教徒の襲撃後、イスラム教徒たちはすぐにその場から逃げだし、警察に保護されたという話だった。

この数年、ミャンマーの各地で起きているイスラム教徒襲撃事件は、過激派仏教徒の「969運動」が扇動していると推測される。「969運動」を率いているのは、マンダレーを拠点として活動する高僧アシン・ウィラトゥ氏である。アシン・ウィラトゥ氏は、急速に大きくなる「969運動」の急先鋒に立って多数のスピーチを行い、仏教徒に対し、「969」を掲げる店だけで買い、イスラム教徒の店をボイコットするように呼びかけたりしている。なぜ、「969運動」急速に勢力を拡大しているのかは、今のところ定かではないが、政府内の反民主化グループが、スー・チー氏の信用を失墜させようとして、画策しているのではないかという見方もある。それは、「反民主化グループは、ロヒンギャに肯定的な発言をせざるを得ない立場にスー・チー氏を追い込みたいのである。そうすれば、反イスラム感情を抱いている者が多いミャンマーの仏教徒の間で人気が高い彼女を貶められる。多くのビルマ人が仏教を保護するという

名目のもと、暴力を認めているように見える。一方で、彼女がこの問題について沈黙を守れば、人権に対して毅然とした立場を取る彼女を支援する人々を失望させることになる」というものである。これに対して、スー・チー氏は現時点では態度を留保している。

このような状況下で、インドにアルカイダの支部が設立されたのである。アルカイダは弾圧されているロヒンギヤに手を差しのべることも行動範囲に入れている。現在、ミャンマー政府は自国内のイスラム教徒が少数勢力であるからといって、それを侮っておらず、同時多発テロも想定して、警戒を強めているという。

4. 「何をなすべきか」

バングラデシュ、インド、ミャンマーの地政学的関係はきわめて複雑である。右の地図を見れば一目瞭然だが、バングラデシュとミャンマーの間には、セブンシスターズと呼ばれるインドの7州が存在している。この7州はインドの中でも極貧とされている地域であり、中島岳志氏はその著書「ヒンドゥー・ナショナリズム」(中公新書刊)の中で、「マニプールという場所は、第2次大戦中に日本軍が進



撃し、歴史的な大敗を喫したあのインパールである。このミャンマーとの国境に近い地域に住む少数民族の人の中には、イギリスの植民地時代にキリスト教徒に改宗した人が多く、現在 RSS が重点的にヒンドゥーへの改修活動を進めている地域である。また、ナガランドなどを含めたこの地域一帯は、インド独立以降、さまざまな形で分離独立運動が行われてきた場所であり、RSS にとっては、ネーションの統合のためにも何とかしてヒンドゥー文化への取り込みを進めたい地域なのである」と書いている。またセブンシスターズには、土着の民間信仰も色濃く残っており、チン族などの武装組織も活動中である。さらに上述したように、バングラデシュのチッタゴン以東には、かつて日本軍と共に進出した仏教徒が居住しており、イスラム過激派のターゲットになっている。ミャンマーのシットウエー近辺には、英国軍と共に進出したイスラム教徒(ロヒンギヤ)が居住しており、仏教徒過激派のターゲットになっている。そのような両国に、今回、アルカイダが触手を伸ばしてきたのである。

私には、イスラム教や仏教の教理や行動原理の是非を論じる力はない。しかしながら、暴力を振るってまで自らの勢力拡大を図ろうとする行為には、それがどんな宗教であろうとも絶対反対である。たとえどんなことがあっても、テロ行為はやめさせなければならないし、ハルタルという名の破壊行為を許すこともできない。また他宗教への襲撃、略奪、破壊などの行為も絶対に行わせてはならない。

人民大衆が過激な行動に走るのには、生活水準の低さが大きな理由としてあげられる。インド、バングラデシュ、ミャンマーは共に、世界の最貧国に近い。これらの国の生活水準を引き上げ、貧困を撲滅することが、彼らが過激な行動に走るのを阻止するもっとも有効な手段である。その意味で、日本政府が、インド、バングラデシュ、ミャンマーへ、それぞれ多額の援助を行うことを表明したことは、大きな意義がある。今後はその援助が、人民大衆の手に渡り、本当に貧困の撲滅に直結するかどうかを見定めなければならないが。

わが社は現在、バングラデシュのダッカとミャンマーのピーで縫製工場を稼働させている。数年後には、セブンシスターズにも工場を建設したいと考えている。私は、わが社同様に、先進諸国の労働集約型産業が、これらの国に大挙して進出し、一気に生活水準を引き上げることが貧困撲滅のもっとも近道であり、それこそがアルカイダの進出を食い止める切り札だと考える。もちろん悪しき資本主義を持ち込み、貧富の格差を拡大するようなことは避けなければならないが。

以上

上海街角インタビュー ④⑧

社団法人大阪能率協会アジア・中国事業支援室副室長（海外委員）

順利包装集団董事（在上海）

福喜多技術士事務所所長

福喜多俊夫

中国にも“風呂屋の釜”のような言い方がある

NHK ラジオ講座「まいにち中国語」で、中国版なぞかけ洒落ことばである“歇后語”（シェホウイ）を紹介していた。日本語で使う、「あいつは風呂屋の釜だ→湯ばかり→言うばかり（口だけ）」というようなユーモアをともなった「なぞかけ」のような洒落ことばが中国語でもあるという。私は知らなかったもので上海人は会話の中でこのような洒落言葉を日常的に使うものなのか聞いてみた。

なお、“歇后語”を理解するために事前にアシスタントに使い方の講義を受けた。

“歇后語”は洒落ことばの一種で、二つの部分から成り、前半は謎かけで、後半は謎解きのようにになっている。普通は前半のみを言い、後半は相手に思いつかせるようになっている。例としては、「面蛇添足 — 多此一举」蛇に足を描きくわえる→かえって余計なことをするという意味。

1. 20 歳代後半の女性

普通の会話ではあまり使いません。話している話題の中で、知っている“歇后語”が使えるときに挟み込みます。私が知っていて時々使う“歇后語”は次のものです。

*「肉包子打狗 — 有去無回」肉饅頭を投げて犬を打つ → 行ったきり帰らない。なしのつぶて（良心が無い人にたとえる）

*「江山易改 — 本性難移」山河の改造はやさしいが → 人の気持ちを移し替えるのは難しい

*「吃不了 — 兜着走」食べきれない → 包んでもってかえる

2. 20 歳代後半の男性

私は殆ど使いません。でも、いくつかは知っています。

*「刀子嘴豆腐心 — 嘴硬心軟（口悪心善）」鋭い口ぶりだが豆腐の心 →

口は悪いが性根は暖かい

＊「対牛弹琴 — 白费勁」牛に琴を弾いて聞かせる → 無駄な骨折り

3. 40 歳代中頃の女性

私は日常会話の中でよく使います。しかし、相手が自分と同じ程度の教育を受けている人にしか使いません。“歇后語”はいっぱいあるけれど、使っても相手が理解できないとしらけてしまいます。日本人にはまず使えないでしょう。これ、わかりますか？ 解説はしません。自分で考えてください。(あとでアシスタントに解説してもらった)

＊「墙头草 — 随风倒」(塀の上に生えた草は風任せ → 日和見主義者)

＊「姜太公钓鱼 — 愿者上钩」(太公望が釣りをする、魚はすすんで針にかかる → 自ら進んでそうすることを言う)

4. 30 歳代前半の女性

普通の人には日常会話に“歇后語”をあまり使わないと思います。“歇后語”は相声(漫才)や商品(小話)でよく使われます。私も全然使わないというわけではありません。

＊「竹篮打水 — 一场空」(箆で水をくむ → 労力が水の泡となること)

＊「黄鼠狼给鸡拜年 — 没安好心」(いたちが鶏に年賀の挨拶をする → オベツカイに下心有り)

などはよく使います。

5. 50 歳代前半の男性

日常的にというわけではないけれど、親しい友達との酒の席などでは比較的よく使います。例えば次のようなものです。

＊「和尚打伞 — 无法无天」(和尚が傘をさす → 法も天(仏様)も無視するやつ。この場合、無法は同じ発音の無髪にかかっています)

＊「泥菩薩过江 — 自身难保」(もともと人をかばう菩薩が、自分を守るのに精いっぱい → 役目を果たすべき人が役目を果たさない)

＊「孔夫子搬家 — 尽是书」(孔子が引っ越しをする、すべてが本 → 博打で負けっぱなし。“書”の発音は“輸”と同じで、“輸”は負けるという意味)

＊「小和尚念经 — 有口无心」(子供和尚の念仏、口だけ動く → 心が入っていない)

6. 40 歳代前半の男性

友達同士ではよく使います。“歇后語”の前半を使って、相手がそれを理解して話がつながれば、会話が楽しく弾みます。“歇后語”は庶民の啓蒙のため難しい「道」や「理」をわかりやすく語ったもの、あるいは庶民どうしが上の階層を皮肉るために作りだしたものがあり、結構洒落ています。基本的には泥臭いけれど、智慧の閃きがあります。

＊「狗咬耗子 ー 多管闲事」(犬が鼠に吠え立てる → 要らぬお世話 → 余計なことに口を出す)

＊「六月的天、孩子的脸 ー 说变就变」(六月の空模様と子供の顔色 → あれっという間にすぐ変わる)

これなんかよく使います。

7. 20 歳代前半の女子大生

結構よく使いますよ。学校では習わなかったけれど、テレビの娯楽番組等でよく使っているから覚えました。

いろいろな“歇后語”を教えてもらったが、日本の洒落言葉と結構共通点が多い。日本の洒落言葉が中国の“歇后語”の影響を受けているのも多いのかもしれない。日本では若い人に”蕎麦屋の出前”や”風呂屋の釜”といっても通じなくなっているが、中国でも“歇后語”は言葉遊びなので、使うときは相手によって言葉を選んでいるようだ。

“歇后語”に興味を持たれた方は下記にアクセスするといろいろ例が出ている。

<http://www.diyifanwen.com/tool/xiehouyu/11220173201414388.html>

ただ、解説はないが、中国語電子辞書で調べると多くの例が解説されていた。

また、中国人は日常会話や広告文の中で「ことわざをもじった」、もじり言葉もよく使う。たとえば、洗濯機の広告に「閑妻良母」というのがあるが、これは「賢妻良母」のもじり。会話の中で「向錢看」(お金がすべて)といえ、これは「向前看」(前向き)をもじったものだ。

以上

【中国経済最新統計】

	① 実 質 GDP 増加率 (%)	② 工 業 付 加 価 値 増 加 率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億ドル)	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005 年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006 年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007 年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008 年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009 年	9.1	11.0	15.5	-0.7	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010 年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011 年	9.2	13.9		5.4		1549	20.3	24.9				
2012 年	7.7	10.0		2.7		2303	7.9	4.3				
1 月				4.5	25.3	273	-0.5	-15.0	4.6	10.8	16.6	14.8
2 月		21.3		3.2	—	-315	18.3	40.3	38.7	-0.9	17.8	15.0
3 月	8.1	11.9	15.2	3.6	21.1	53	8.8	5.4	-6.5	-6.1	18.1	15.7
4 月		9.3	14.1	3.4	19.2	184	4.9	0.4	-26.1	-0.7	17.5	15.4
5 月		9.6	13.8	3.0	21.0	187	15.3	12.7	-6.1	0.0	17.9	15.7
6 月	7.6	9.5	13.7	2.2	21.8	317	11.3	6.3	-16.3	-6.9	18.5	16.0
7 月		9.2	13.1	1.8	20.6	251	1.0	5.7	-7.8	-8.6	18.9	16.0
8 月		8.9	13.2	2.0	19.4	267	2.7	-2.7	-12.7	-1.4	18.4	16.1
9 月	7.4	9.2	14.2	1.9	23.1	277	9.8	2.3	-6.4	-6.8	19.8	16.2
10 月		9.6	14.5	1.7	22.4	320	11.5	2.2	1.8	-0.2	14.6	15.9
11 月		10.1	14.9	2.0	20.0	196	2.8	-0.1	-8.7	-5.4	14.5	15.7
12 月	7.9	10.3	15.2	2.5	18.8	316	14.0	6.0	-7.8	-4.5	14.4	15.0
2013 年	7.7	9.7		2.6								
1 月				2.0	20.8	291	25.0	29.0	-12.4	-3.4	15.9	15.4
2 月				3.2		153	21.7	-14.9	-35.6	6.3	15.2	15.1
3 月	7.7	8.9	12.6	2.1	21.5	-9	10.0	14.2	-19.7	5.7	15.7	14.9
4 月		9.3	12.8	2.4	19.8	182	14.6	16.6	13.9	0.4	16.1	14.9
5 月		9.2	12.9	2.1	19.7	204	0.9	-0.1	-14.4	0.3	15.8	14.5
6 月	7.5	8.9	13.3	2.7	19.9	271	-3.3	-0.9	-17.3	20.1	14.0	14.1
7 月		9.7	13.2	2.7	20.2	178	5.1	10.8	1.2	24.1	14.5	14.3
8 月		10.4	13.4	2.6	21.4	285	7.1	7.1	-11.7	0.6	14.7	14.1
9 月	7.8	10.2	13.3	3.1	19.6	152	-0.4	7.4	-16.8	4.9	14.2	14.3
10 月		10.3	13.3	3.2	19.2	311	5.6	7.5	-8.2	1.2	14.3	14.1
11 月		10.0	13.7	3.0	17.6	338	12.7	5.4	-9.3	2.3	14.2	14.2
12 月	7.7	9.7	13.6	2.5	17.2	256	4.3	8.6	-3.4	-42.6	13.6	14.1
2014 年												
1 月				2.5	19.8	319	10.5	10.8	-8.6	-4.5	13.2	14.3
2 月				2.0		-230	-18.1	10.4	1.3	4.0	13.3	14.2
3 月	7.4	8.8	12.2	2.4	17.3	77	-6.6	-11.3	6.1	-1.5	12.1	13.9
4 月		8.7	11.9	1.8	16.6	185	0.8	0.7	0.5	3.4	13.2	13.7
5 月		8.8	12.5	2.5	16.9	359	7.0	-1.7	8.4	-6.6	13.4	13.9
6 月	7.5	9.2	12.4	2.3	17.9	316	7.2	5.5	10.3	0.2	14.7	14.0
7 月		9.0	12.2	2.3	15.6	473	14.5	-1.5	14.0	-17.0	13.5	13.4
8 月		6.9	11.9	2.0	13.3	498	9.4	-2.1	5.2	-14.0	12.8	13.3

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。
 2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1 月と 2 月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、（ ）内の数字は 1 月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。
 3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の 86%（2007 年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。